

宇宙だけじゃないまち 大樹町での地域おこし



宮田 悠花 (みやた ゆうか)

1996年、大阪府堺市出身。会社員を経て、2023年6月より大樹町地域おこし協力隊の観光推進員に着任。大樹町観光協会の事務局としてSNSを運用するほか、語学力を活かしインバウンド対応を進めている。

【大樹町について】

北海道十勝地方の南端、太平洋に寄り添うように広がる大樹町。

背には雄大な日高山脈がそびえ、町の中央を日本一の清流とも名高い^{れきふねかわ}歴舟川が穏やかに流れます。まさに、北海道の大自然を五感で感じられる地。町の主な産業は酪農。車を走らせれば、のんびりと草を食む牛たちの姿に癒やされ、心もほぐれます。そしてこのまちは、



町役場から撮影した市街地と日高山脈

「宇宙のまち」としての顔も。40年以上にわたって宇宙開発と地域の未来を結び続けてきました。宇宙とともに歩むまちづくりは、今も進化を続けています。

【きっかけ】

高校時代に漫画『宇宙兄弟』を読み、宇宙への憧れを抱くようになりました。文系の私でも宇宙に関わる仕事ができるのではないかと考え、大学卒業後は静岡県のロケット部品工場です務職として働き始めました。

しかし、日々の業務をこなすなかで、次第に「本当に宇宙に関わっていると言えるのだろうか」という葛藤を抱くようになりました。そんな時、大樹町が宇宙産業に力を入れていることを知り、地方での暮らしに興味を持ちました。都会の喧騒^{けんそう}が苦手で、人混みや買い物にあまり興味がなかった私にとって、自然豊かな地方での暮らしは理想的に映りました。

「もう一度、宇宙に近づきたい」「新しい土地で挑戦してみたい」という思いを胸に、2023年6月、大樹町へと移住し、地域おこし協力隊の観光推進員として活動を開始しました。

【観光推進員としての活動】

着任後は、大樹町観光協会の事務局員として、町の観光情報の発信を担当しています。観光協会公式SNSの運用、観光情報サイト「Visitタイキ」の更新、観光ガイドマップのリニューアル作業など、多岐にわたる業務を手掛けています。

特に力を入れているのは、インバウンド（訪日外国人旅行者）対応の強化です。SNSやウェブサイトにも英語表記を積極的に取り入れることで、外国から訪れる方々にも大樹町の魅力を伝えやすい環境づくりに努めています。

また、町の文化や伝統にも深い関心を持ち、まつりやイベントの運営にも積極的に関わっています。なかでも印象的な取り組みが、「歴舟川清流まつり」で行われる柱たいまつ作りの記録作成です。

【伝統行事「柱たいまつ」の継承への取り組み】

大樹町では、巨大なたいまつを燃やし、倒れた方向でその年の豊作・豊漁を占うという伝統行事が行われています。この柱たいまつは、大樹町の労働者団体（大樹地区連合）、技能者会をはじめ、町の多くの事業者の方々の力を結集して作られています。

しかし、柱たいまつきずなの製作方法はこれまで口頭でしか伝承されておらず、担い手不足とともに継承の危機に直面していました。私は、町民の方々にインタビューを重ね、製作工程を詳細に記録しました。具体的には、使用する材料の選定方法や組み立て手順、火をつける際の注意点など、細部にわたる情報をまとめました。

この取り組みを通じて、地域の方々との絆きずなも深まりました。伝統行事の継承は、地域の文化や歴史を守るだけでなく、人と人とのつながりを強める大切な機会であると実感しています。



まつりのクライマックスに大勢の人が集まります

【宇宙交流センターSORAでのガイド活動】

協力隊の活動の傍ら、「宇宙交流センターSORA」でガイドスタッフとしても勤務しています。訪れた方々に宇宙をもっと身近に感じてもらいたいと、館内に宇宙クイズを設置するなど、独自の工夫を凝らしています。「憧れていた宇宙に、こんな形で関われるなんて本当に嬉しい」と感じています。宇宙に憧れたあの日の想いは、今、大樹町で新たなかたちとなって息づいています。

【これからの展望】

情報発信だけでなく、実際に町に足を運んでもらえるようなツアーを企画したいと思い、「国内旅行業務取扱管理者」の国家資格を取得しました。将来的には、大樹町の豊かな自然、歴史、そして宇宙をテーマにした独自の観光ツアーを企画し、町の魅力を国内外に発信していきたいと考えています。

大樹町は「宇宙のまち」として知られていますが、それだけではありません。四季折々の自然、地元の食材、温かい人々、すべてが大樹町の魅力です。「宇宙だけじゃないまち」としての顔も、たくさんの人に知ってほしいと思っています。

これからも、大樹町の一員として、地域に寄り添いながら、まちの未来つむぎを紡いでいきたいと考えています。



宇宙関連実験施設と山々